基督教友愛新聞

発行所：
白十字キリスト教社会主義研究会
（http://www.ichtus.net/css）
発行人：
倉井 香矛哉（独立系研究者）

# 協同組合運動の展開

## 労働者生産協同組合、J.M.ラドローが構築した社会変革の手段

今回は、英国のキリスト教社会主義者たちによる直接的な社会変革の取り組みとして、弁護士のJ．M．ラドローを中心とする協同組合運動について概説したい。

ヨーロッパ世界における協同思想の歴史は古く、その起源は、原始キリスト教の共産思想、ルネッサンス期のユートピア思想のうちに見出すことができる。一七世紀中葉には、G．ウィンスタンリー（英）のディガーズ運動、P．プロッコイ（蘭）の小共和国、J．ベラーズ（英）の産業学校など、すでに協同組合運動の前史といえる取り組みが存在した。それらの運動は、産業革命期、一八四四年に組織されたロバート・オーウェンのロッチデール先駆者協同組合へと受け継がれていった。

以上の歴史的背景を把握した上で、本紙では、ラドローが「社会主義のキリスト教化」を掲げた一八五〇年代の協同組合運動に焦点を当てることにしたい。すでに過去号でも紹介したように、ラドローは、一八四八年のパリで二月革命を目撃している。英国教会の聖職者であるF．D．モーリスは、「社会主義のキリスト教化」を具現化する方法として「アソシエーション」を組織することを提案したが、これは、ラドローがパリで視察したフーリエ主義やビュシェ派の労働者生産協同組合をイギリスの状況に適応させて展開する試みであった。

写真：1854年のJ．M．ラドロー
(c) Mike Booth / Alamy Stock Photo

### 「利潤の fellowship」を理論的基礎に
### 組合員＝労働者を主人公とする運動

ラドローにとって、イギリス社会を変革するためには、「労働者が自らを個人的労働の束縛から解放する」ことが重要であった。彼の提唱した「利潤の fellowship」は、「平等な利潤分配」によって「労働に応じた不平等な手当」を相殺するための機構であり、その発想は、英国における労働者生産協同組合運動の理論的基礎となった。一八五〇年二月、ロンドンで、「仕立工生産協同組合」（Working Tailors' Association）が組織され、同年六月、「労働者協同組合促進協会」（The Society for Promoting Working Men's Association：SPWMA）が創設された。キリスト教社会主義運動による労働者生産協同組合は、ここに本格的な展開を画することになった。

ラドローたちは、一八五〇年から五二年にかけて、ロンドンに一一の労働者生産協同組合を設立した。しかしながら、これらの労働者生産協同組合の多くは小規模であり、熟練度や生産技術の点において、さらには、協同組合思想の実践という点において、彼らが思い描いた生産組織には程遠い水準にとどまっていた。こうした点は、のちに社会政策と労働運動の研究家であるベアトリス・ウェッブ（旧姓：ポター）によって批判される遠因ともなった。加えて、各労働者生産協同組合は、原材料市場と製品販売市場の確保という重大な問題に直面した。それにより、SPWMAの内部に、労働者生産協同組合の市場問題が持ち上がる。とりわけ製品市場問題の解決にあたっては、消費者協同組合の創設が有効である、との気運が醸成されていった。

労働者生産協同組合の市場問題を解消するための消費者協同組合の構想を語る上で、ジル・ルシェヴァリエ、E．V．ニールらの果たした役割は大きい。引き続き、次号で解説することにしたい。

【参考文献】
（一）武内哲夫・生田靖『協同組合の理論と歴史』（ミネルヴァ書房、一九七六年三月）
（二）中川雄一郎「キリスト教社会主義運動と労働者生産協同組合　その一：キリスト教社会主義運動の開始」、『協同の發見』No.120（協同総合研究所、二〇〇二年六月）
（三）中川雄一郎「キリスト教社会主義運動と労働者生産協同組合　その二：労働者協同組合促進協会の創設と展開」、『協同の發見』No.124（協同総合研究所、二〇〇二年一〇月）

## 介護職員初任者研修を受講

### 介護保険法の下、国民の権利として提供される介護サービスの現場へ。福祉専門職を目指す実務経験の出発点。

五月一三日（土）からの週末は、介護職員初任者研修を受講している。現行の介護保険制度では、入浴、排泄、食事をはじめとするADL（日常生活動作）の介助だけではなく、「尊厳の保持」と「自立支援」を目的とした「心身の状況に応じた介護」が掲げられている。高齢者、障害のある方を含めて、すべての人が普通の生活を送ることは、日本国憲法が規定する基本的人権、生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利である。

また、介護は、科学的根拠と客観性のある手法に基づく技術である。身体の構造に基づくボディメカニクスをはじめ、利用者の生活課題を明確化するアセスメント、地域包括ケアの一端を担う多職種連携などの方法論を習得している。

初任者研修を修了し、介護施設での勤務経験を重ねれば、介護福祉士、精神保健福祉士、社会福祉士などの国家資格を受験できる。千里の道も一歩から。愚直に学んでいる最中だ。

## 天帳院日記

なぜ、今、社会主義を学ぶのか。大学時代は、知的教養として『資本論』を読もうとした。一年次に制作したラジオドラマでは、ヒロインの女子高生がキルケゴールを愛読し、一方の男子生徒はマルクス派という設定だった。二年次にはウェーバーに傾倒したが、四年生になると、大学院進学を前に、諸学問の基礎として経済学の講義を履修した。だが、数式を用いた学習内容に苦労し、学期末試験の結果は散々だった。四年間で唯一、履修取消をした授業である。院進後もマルクス主義や経済学に関する知識の欠落は懸案だったが、在学中は本格的に学ぶ機会を逸した。

哲学とユダヤ問題に関心を抱いていたハンナ・アーレントは、二度目の結婚を機に、元共産党員の夫からマルクス主義を学んだ。物事を学ぶには適切な時期があるのだろう。自分にとっては、今がその時だと感じている。

# 告 知

# ドストエフスキー読書会

## （第 5 回　白十字の会・定期読書会：キリスト教文学、社会評論）

## テキスト：ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』（新潮文庫）

【プログラム】

開会
倉井香矛哉「キリスト教社会主義概論５」
参加者一同「ドストエフスキー読書会」
休憩
質疑応答、議論、問題提起
閉会

（全体で 2～3 時間程度を予定）

【その他、参考図書】

イマヌエル・カントの信仰的著作
ヘーゲル『キリスト教の精神とその運命』
ダーフィト・シュトラウス『イエスの生涯』
フォイエルバッハ『キリスト教の本質』
マルクス『資本論』
カール・バルト、パウル・ティリッヒの各著作
19 世紀英国における産業革命とキリスト教社会主義
『新紀元』同人、賀川豊彦らのキリスト教社会主義
内村鑑三、無教会の伝道者たち
その他
（順不同）

日時：2017 年 6 月 24 日（土）18 時～20 時
（途中入退室可。会場は一般の喫茶店ですので、ご都合のよい時間帯にお越し下さい。）

場所：都内喫茶店を予定

※　今回は、東急東横線沿線（都立大学～自由が丘）の喫茶店での開催を予定しております。
詳細は、書記長の倉井（独立系研究者）から参加希望者の皆様へ個別に連絡いたします。

※本読書会は、学術的関心に基づく有志の集まりです。主催団体名に「キリスト教社会主義」と銘打っておりますが、「信仰の有無・教派の別」等は一切問いません。

## 主催：白十字キリスト教社会主義研究会